

教科の目標

- 1 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 2 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 3 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点・方法

- 1 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 2 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 3 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

- ・授業へ取り組む姿勢や授業を深め広げる発言など意欲的な姿勢。
- ・作文や感想文など。
- ・提出物、小テスト、暗唱など。
- ・定期テストなどで総合的に評価

特色ある学習方法

- ・討論を通して、話し合い活動を行い、深い話し合いとなるようにする。
- ・学び合い活動を活発に行う。
- ・スピーチや発表を積極的に行う。
- ・古典の暗唱を行う。

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
一 学 期	1 「学びをひらく」 ○いろいろな言葉にふれながら、学習の見通しをもつ 2 「新しい視点で」 ○説明の工夫を捉えながら、ものの見方を広げる 3 「言葉に立ち止まる」 豊かな表現にふれ、言葉のもつ力を考える。 ●読書を楽しむ 書写（硬筆）	・詩の朗読発表を行い、想像力表現力をつける。 ・漢字の組み立てと部首を理解する。（辞書） ・信条の変化を、図を用いて整理する。 ・文章のまとまりに着目し、構成をとらえる。 ・漢字の組み立てを理解する。 ・筆者の主張と事例との関係を整理する。 ・詩を読み味わい、情景を想像する。 ・文節や単語など言葉の単位を理解する。 ・楷書の縦書きを丁寧に美しく書く。
二 学 期	4 「心の動き」 ○言葉を通して、人の思いに寄りそう 5 「筋道を立てて」 ○根拠を明らかにしながら伝え合う 6 「いにしえの心に触れる」 ○古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える 書写（書きぞめ）	・登場人物の気持ちや行動情景描写などに注意して読み取る。 ・伝えたい事実や事柄についてわかりやすく書く。 ・話題をとらえて、話し合う。 ・仮名遣いに注意して音読する。 ・現代の文章との違いをとらえ、古文の特徴を知る。 ・故事成語の由来と意味や語句の種類と働きを理解する。 ・毛筆で楷書を丁寧に美しく書くことが出来る。
三 学 期	7 「価値を見いだす」 ○発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる 8 「自分を見つめる」	・展開を読み取り、人物の心情の変化を捉える。生き方について考える。 ・漢字の成り立ちを理解する。 ・感じたことをもとに鑑賞文を書く。 ・単語の分類について理解する。 ・詩の中の言葉や表現に注意して読み、自分のもの見方や考え方を広くする。

教科の目標

- 1 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 2 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 3 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点・方法

- 1 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 2 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読みこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 3 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

- ・授業へ取り組む姿勢や授業を深め広げる発言など意欲的な姿勢。
- ・作文や感想文など。
- ・提出物、小テスト、暗唱など。
- ・定期テストなどで総合的に評価する。

特色ある学習方法

- ・話し合い活動を積極的に行う。
- ・教え合い活動を積極的に行う。
- ・スピーチや発表を積極的に行う。
- ・古典の暗唱を行う。
- ・筆ペンで行書に慣れる。

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
一 学 期	1「広がる学びへ」 ○さまざまな文章に触れ、言葉の豊かさに気づく。 2「多様な視点から」 ○構成を捉え、説明の工夫を考える。 3「言葉と向き合う」 ○表現を味わい、言葉の世界を広げる。 書写（硬筆）	・登場人物の設定に関する情報を、図を用いて整理する。 ・登場人物の設定に着目し、人物像や、人物どうしの関係を読み取る。 ・自立語を理解する。 ・作者のものの見方や感じ方に触れる。 ・自分が感じる四季の趣と比べて、読み味わう。 ・目的や相手に応じて書く、話す、聞く。 ・読書に親しむ。
二 学 期	4「人間のきずな」 ○さまざまな関係を捉え、考えを深める。 5「論理を捉えて」 ○根拠を吟味し、説得力を高める。 6「いにしえの心を訪ねる」 ○昔の人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ。 7「価値を語る」 ○自分にとっての価値を見きわめ、伝え合う。 書写（書き初め）	・文章の構成や場面の展開についての理解を深める。 ・随筆の味わい方を知り、日常の読書に生かす。 ・敬語表現の理解を深める。 ・気持ちや要件を効果的に伝える手紙を書く。 ・漢字を正しく読み選ぶ。 ・意見を裏づけるための、適切な根拠の在り方について理解する。 ・筆者の主張を吟味する。 ・古典の世界を楽しむ。 ・ものの見方や考え方を捉える。 ・情報を整理する。 ・文章を比較して、表現の効果を考える。 ・用言の活用について、理解する。
三 学 期	8「表現を見つめる」 ○多様な表現に触れ、自分の経験と重ねる。	・人物の生き方や、考え方について、自分の考えを持つ。 ・視点を定めて文体を工夫し、自分について書く。 ・付属語について理解する。 ・話し言葉と書き言葉。

教科の目標

- 1 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 2 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 3 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点・方法

- 1 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 2 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 3 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしていて、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

- ・授業へ取り組む姿勢や授業を深め広げる発言など意欲的な姿勢。
- ・作文や感想文など。
- ・提出物、小テスト、暗唱など。
- ・定期テストなどで総合的に評価する。

特色ある学習方法

- ・話し合い活動を積極的に行う。
- ・教え合い活動を積極的に行う。
- ・スピーチや発表を積極的に行う。
- ・古典の暗唱を行う。

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
一 学 期	1 「深まる学びへ」 ○表現の豊かさを味わい、生き方を考える。 2 「視野を広げて」 ○問題意識をもち、社会に視野を広げる。 3 「言葉とともに」 ○表現を楽しみ、言葉の世界の奥深さを知る。 書写（硬筆）	・言葉の表現の特徴に注意し、感想をもちながら読む。 ・登場人物の生き方や考え方を捉え、作品の読みを深める。 ・漢文の理解を深める。 ・漢字・熟語の知識と理解を深める。 ・文章の特性を踏まえて読み、文章の構成や論理の展開を評価する。 ・相手を説得できるように、話の構成を工夫する。 ・俳句の特徴を理解し、読み深める。 ・和語・漢語・外来語の特徴を理解する。 ・読書に親しむ。
二 学 期	4 「状況の中で」 ○多様な状況の中で生きる人の姿に思いをはせ、考えを深める。 5 「自らの考えを」 ○多様性の中で自分の考えを確立する。 6 「いにしへの心を受け継ぐ」 ○作品の背景を想像して読み、古典の心を今に生かす。 7 「価値を生み出す」 ○人との関わりの中で、新しい価値を創造する。	・詩について、現代社会の状況を踏まえて考えを深める。 ・時代や社会の変化の中で生きる人間の姿について考える。 ・人柄や心情を読み取る。 ・論理に着目して推敲する。 ・慣用句・ことわざ・故事成語の知識を深める。 ・文章の信頼性を確かめ、社会の在り方について自分の意見をもつ。 ・言葉のリズムを味わいながら朗読する。 ・和歌や古文に表れた昔の人の心情や情景を読み取る。 ・歴史的背景を考えながら古典を読み、作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・表現の工夫について、自分の意見をもつ。 ・筆者の考えを捉え、自分の意見をもつ。 ・情報を読み取って文章を書く。 ・行書の書き方を学ぶ。
三 学 期	8 「未来へ向かって」 ○これまでを振り返り、これからを見つめる	・国際社会における人と人との関係について、考えを深める。 ・詩に表現された思いを捉え、自分の可能性について考えをもつ。 ・これまでの学習についてまとめをする。

歴史的分野の目標

- 1 日本の歴史を中心に、その大きな流れと各時代の特色をつかみ、日本史の理解と国民としての自覚を持つ。
- 2 歴史の展開の上で大きな役割を果たした人物や各時代の特色を表す文化遺産を通して、歴史を具体的に理解し尊重する態度を持つ。
- 3 我が国と諸外国の歴史や文化との関わりを考え、国際協調の精神を養う。
- 4 身近な地域の歴史や具体的な歴史遺産などを通して興味関心を高め、主体的に学習に取り組み、資料を活用して多面的多角的に考え、公正に判断し表現する能力と態度を持つ。

評価の観点・方法

- ☆ 我が国や世界の歴史について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめることができる。
- ☆ 社会の様々な出来事から問題を発見し、得た情報を多面的・多角的に考察して公正に判断し、その過程と結果を発表や討論などにおいて適切に表現することができる。
- ☆ 日本や世界の歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。

特色ある学習方法

- 自分で追究する問題を見つけ、解決するための手段を探し、観察、調査等の活動を経て資料を収集し、選択、活用し、情報を自分でまとめる作業を行う。
- 自分でまとめた資料を基に、話し合い活動を行い、他の考えを理解することで新たな発見をし、さらなる問題の追究を進めていく。
- 歴史的分野や公民的分野の内容を横断しながら学習を進めていく。

	学習の内容	学習のねらい
1 学 期	○歴史の流れ テーマを決めて調べよう、まとめよう、発表しよう。 ○古代までの日本 文明の起こりと日本の成り立ち ・人類の出現 ・古代文明の発生 ・縄文と弥生文化 ・大王の出現 ・古墳文化	・関心を持っている歴史上のテーマを決め、資料を集め、まとめ、発表することを通して、歴史への興味関心、学ぶ意欲を高める。 ・日本列島における人々の生活の開始、古代国家の形成と発展のあらましを東アジア世界との関連で理解する。
2 学 期	○古代国家の歩みと東アジアの世界 ・大化の改新 ・律令国家の成立 ・奈良時代の貴族 ・平安京と摂関政治 ・文化の国風化	・天皇・貴族の政治が展開した我が国の大きな歴史の流れをつかむ。 大陸の国際的な文化から国風文化へと進む特色を理解する。
3 学 期	○中世の日本 ・武士の成長 ・武家政権の成立 ・鎌倉時代の文化 ・モンゴルの襲来 ・南北朝の動乱 ・室町幕府 ・民衆の成長と戦国	・武家政権の誕生と武家社会の発展の大きな流れをつかむ。 東アジア世界との密接な関わりと国際政治への影響について理解する。

地理的分野の目標

- 1 世界や日本の地理的事象に対する関心を高めること
- 2 広い視野に立って世界の国々及び我が国の国土の地域的特色を考察し、理解すること
- 3 地理的な見方や考え方の基礎を培うこと
- 4 我が国の国土に対する認識を養うこと

評価の観点・方法

- ☆ 我が国の国土や世界について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめることができる。
- ☆ 社会の様々な出来事から問題を発見し、得た情報を多面的・多角的に考察して公正に判断し、その過程と結果を発表や討論などにおいて適切に表現することができる。
- ☆ 日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこに見られる課題を主体的に追究・解決しようとしている。

特色ある学習方法

- 自分で追究する問題を見つけ、解決するための手段を探し、観察、調査等の活動を経て資料を収集し、選択、活用し、情報を自分でまとめる作業を行う。
- 自分でまとめた資料を基に、話し合い活動を行い、他の考えを理解することで新たな発見をし、さらなる問題の追究を進めていく。
- 歴史的な分野や公民的分野の内容を横断しながら学習を進めていく。

	学習の内容	学習のねらい
1学期	○世界のさまざまな姿 ○世界各地の人々の生活と環境	・調べ方やまとめ方、話し合い方を学ぶ。 ・地球表面上の様子をとらえる。 ・地球上の位置の表し方や位置関係をとらえる技能や知識を身に付ける。 ・世界の地域区分や国々の名称と位置などをもとに大まかな世界地図を描けるようにする。 ・地域で異なる自然環境の違いを理解する。 ・人々の生活と環境との関わりや、様々な条件下で多様な生活を営んでいることを尊重する態度を育てる。
2学期	○世界の諸地域 ・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州	・世界の諸地域の地理的事象に関する学習テーマを設定し、意欲的に追求する。 ・世界の諸地域の特色と課題を多面的、多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現する。 ・世界の諸地域に関する様々な資料の読み取りや比較、分析や関連付けなどを行うことができる地理的技能を育む。 ・世界の諸地域の自然環境や産業、生活や文化、歴史的背景などの特色について、それぞれの基礎的、基本的な知識を身に付ける。
3学期	○世界のさまざまな地域の調査	・学習した地理的事象や日常生活・報道などによる話題などの地理的事象に関心を高め、設定した課題を意欲的に追及できる。 ・収集した統計などの資料から地域的特色について読み解き、適切に表現できる。 ・調査した地域の特色を理解し、調査結果をまとめる際の基本的な記述の仕方を理解できる。

地理的分野の目標

- 1 日本や世界の地理的事象に対する関心を高めること
- 2 広い視野に立って世界の国々及び我が国の国土の地域的特色を考察し、理解すること
- 3 地理的な見方や考え方の基礎を培うこと
- 4 我が国の国土に対する認識を養うこと

評価の観点・方法

- ☆ 社会の様々な出来事への関心を高め、意欲的に追究し、広い視野に立て解明しようとする。
- ☆ 社会の様々な出来事から問題を発見し、得た情報を多面的・多角的に考察して公正に判断し、その過程と結果を発表や討論などにおいて適切に表現している。
- ☆ 社会的事象について基本的な考え方や知識を身に付け、社会的事象の意義や特色、相互の関連などを必要な資料を収集・活用して理解することが出来る。

特色ある学習方法

- 自分で追究する問題を見つけ、解決するための手段を探し、観察、調査等の活動を経て資料を収集し、選択、活用し、情報を自分でまとめる作業を行う。
- 自分でまとめた資料を基に、話し合い活動を行い、他の考えを理解することで新たな発見をし、さらなる問題の追究を進めていく。
- 歴史的分野や公民的分野の内容を横断しながら学習を進めていく。

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
一 学 期	○世界から見た日本のすがた ・世界から見た日本の自然環境 ・世界から見た日本の人口 ・世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 ・世界と日本の結びつき	・世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の特色を「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結び付き」の四つの観点からとらえる活動を通して日本の国土の特色を大観する。 ・上記の観点から、世界と日本、日本と国内の地域間を比較し関連付けて考察することで、日本の地域的特色を多面的・多角的にとらえる観点や方法を身に付ける。
二 学 期	○日本の諸地域 ・九州地方 ・中国、四国地方 ・近畿地方 ・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方 ・日本をながめて	・日本の各地方の地理的事象に関する学習テーマを設定し、意欲的に追求する。 ・日本の各地方の特色と課題を多面的、多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現する。 ・日本の各地方に関する様々な資料の読み取りや比較、分析や関連付けなどを行うことができる地理的技能を育む。 ・日本の各地方の自然環境や産業、生活や文化、歴史的背景などの特色について、それぞれの基礎的、基本的な知識を身に付ける。
三 学 期	○身近な地域の調査	・身近な地域に関する情報を収集し、その特色を、地域の自然環境や他地域との結び付き、人々の営みとの関わりに着目して理解する。 ・縮尺の大きな地図や写真などを活用し、土地利用や地形などを読み取る。

歴史的分野の目標

- 1 日本の歴史を中心に、その大きな流れと各時代の特色をつかみ、日本史への愛情と国民としての自覚を持つ
- 2 歴史の展開の上で大きな役割を果たした人物や各時代の特色を表す文化遺産を通して、歴史を具体的に理解し尊重する態度を持つ。
- 3 我が国と諸外国の歴史や文化との関わりを考え、国際協調の精神を養う。
- 4 身近な地域の歴史や具体的な歴史遺産などを通して興味関心を高め、主体的に学習に取り組み、資料を活用して多面的多角的に考え、公正に判断し表現する能力と態度を持つ。

評価の観点・方法

☆社会の様々な出来事への関心を高め、主体的に追究し、広い視野に立って解明しようとしている。

☆社会の様々な出来事から課題を発見し情報を多面的多角的に考察し、公正に判断することができる。

☆社会的事象について基本的な考え方や知識を身に付け、社会的事象の意義や特色、相互の関連などを必要な資料を収集・活用して理解することができる。

以上の観点について、試験・観察・作品・レポートなどから総合的に評価

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
一 学 期	○近世の日本 ・ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ・江戸幕府の成立と鎖国 ・産業の発達と幕府政治の動き	●ヨーロッパ文化との 出 会 いやアジアへの 活 発な渡 航から、鎖 国による限定 された 対外関係への移行 を 理 解する。 ●織田・豊臣および江戸幕府 の諸政策を通して安定した 社会が 長く続いたことを 理 解する。 ●その後の社会の行き詰まり から大きな変化が起きたこ とを理解する。
二 学 期	○開国と近代日本の歩み ・欧米の進出と日本の開 国 ・明治維新	●開国から明治維新を経て近 代国家を形成していく過程 を、欧米諸国の動きとの関 わりで理解する。
三 学 期	・日清、日露戦争 と近代産業	●急速な近代化により 国際 的な地位が向上したこと、 大陸との 関係のあらま しを理解する。

特色ある学習方法

- 身近な地域の歴史からテーマを決めて具体的に調査し、発表し合う。
- 地図や年表の読解と作成を行う。
- 新聞、読み物、統計その他の資料を活用する。
- 観察や調査の過程と結果を整理し発表し合う。
- コンピュータや情報通信、ネットワーク、いろいろな教育機器を活用する。

1 公民的分野を学習するねらい

- 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い民主的視野から考察し、理解を深め、基礎的な養育を培う。
- 現代の民主政治や経済活動などについて、現代の理解を深め、社会の諸問題を育いて、自ら考えようとする態度を育てる。
- 世界平和の実現と人類の福祉の増大を、各国が相互に尊重し、協力し、理解し合うことが大切であることを理解する。
- 現代社会に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集・選択し、公正に判断し、適切に表現する。

2 評価の観点

- 1 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って考え、理解しようとする。
- 2 社会的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断して、結果をまとめたり発表や討論をしたりできる。
- 3 社会的事象について基本的な考え方や知識を身につけ、社会的事象の意義や相互の関連などを必要な資料を収集・活用して理解することができる。

3 評価の方法

- 授業中の態度や発言・発表など参加の様子
- プリントへの取り組み、レポート・ワークなどの提出物の提出状況と内容
- 中間・期末テストや小テストの観点別問題の達成状況

	学習すること	学習のねらい
一学期	・明治維新と日清戦争 ・日清戦争と日露戦争 ○第二次世界大戦 ・第一次世界大戦 ・世界恐慌と日本 ・第二次世界大戦 ○現代の日本と世界 ・戦後の国際社会 ・戦後の日本と世界	・明治維新を経て近代国家を形成する過程を、欧米諸国との関係の中で理解する。 ・急速な近代化により国際的な地位が向上したことを理解する。 ・第一次世界大戦後の国際情勢を背景に、日本の国民の政治的自覚の高まりや対外関係を理解する。 ・昭和初期から第二次世界大戦までの日本の政治・経済・社会の動きや、戦後の日本と世界の関係を理解する。
二学期	○現代社会と私たち ・現代社会の特色 ・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方 ○個人の尊重と日本国憲法 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障 ○現代の民主政治と社会 ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち ○私たちの暮らしと経済 ・消費生活と市場経済 ・生産と労働	・自ら設定した課題の追求を通して、社会と国に貢献できることを目指す。 ・人間尊重の考え方を基本的人権を中心に理解する。 ・日本国憲法の基本原則を具体的な生活との関わりから責任・義務の関係を社会生活の基本として認識する。 ・国会を中心とするわが国の民主政治のしくみや政党の役割などについて理解するとともに、議会制民主主義の意義について考える。 ・地方自治の考え方やしくみを理解し、住民としての自治意識を持つ。 ・身近な経済生活である消費を中心に経済活動のあらましを理解する。
三学期	・価格の働きと金融 ・政府の役割と国民の福祉 ・これからの経済と社会 ○地球社会と私たち ・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本	・経済活動を家計・企業・政府と金融機関の関係から理解する。 ・国際社会のかかえている地球・人類的な課題についてその解決のために何をなすべきかを考える。 ・世界平和の実現のために国家間の相互の主権尊重と相互理解が大切であることを理解する。

教科の目標

- 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義および方程式の意味を理解し、数量等の関係や法則を簡潔に表現処理できるようにする。
- 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深め、数量関係を表現考察する基礎を培う。
- 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに論理的に考察する基礎を培う。
- 資料の代表値等の必要性や意味を知り、傾向の把握と表現の力を培う。

評価の観点・方法

- ・知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度
- ・定期試験、小テスト等による評価
ワーク、挙手、発表、レポート等による評価
- ・教師の観察による評価
- ・自己評価カード等による評価

特色ある学習方法

- ・クラスを2つに分けての少人数授業
- ・少人数授業の特徴を生かしたきめ細やかな指導に取り組む。
- ・生徒一人一人が積極的・意欲的に取り組むことができるよう、教材の工夫や教具の充実を図る。
- ・基礎基本の反復練習を行い、さらに「計算力」の定着向上を図る。

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	正負の数	負の数の意味を理解し、正の数・負の数の必要性和有用性を知る。 正の数・負の数の四則計算ができる。
	文字と式	文字を用いることにより関係や法則を式に表現する能力を養う。 簡単な文字の式の計算ができる。
二 学 期	方程式	方程式の意味を理解し、一元一次方程式を用いることができる。
	比例と反比例	具体的な事象の中にある伴って変わる2つの数量に注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して、比例や反比例に対する理解を深め、それを利用できるようにする。
三 学 期	平面図形	いろいろな平面図形について、観察、操作、実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深め、基礎的な知識・技能を習得して、それらを活用する能力を伸ばす。
	空間図形 資料の分析と活用	図形をいろいろな操作を通して考察し、空間図形についての理解を深める。 ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解するとともに、資料の傾向の把握と表現する力を培う。

教科の目標

- 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立二元一次方程式について理解しそれを用いる能力を養う
- 基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。
- 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。

評価の観点・方法

- ・知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度
- ・定期試験、小テスト等による評価
ノート、ワーク、発表、レポート等による評価
- ・教師の観察による評価
- ・自己評価カード等による評価

特色ある学習方法

- ・クラスを2つに分けての少人数授業
- ・少人数授業の特徴を生かしたきめ細やかな指導に取り組む。
- ・生徒一人一人が積極的・意欲的に取り組むことができるよう、教材の工夫や教具の充実を図る。
- ・基礎基本の反復練習
- ・小テストの実施
- ・授業プリントの活用

	学習すること	学習のねらい
一学期	式の計算	文字の式を用いた簡単な四則計算ができるようにする。 数量関係を文字を用いて表現し、かつ活用する能力を身につける。
	連立方程式	連立方程式とその解の意味を理解する。 連立方程式の解法を理解し、それを用いることができる。 連立方程式を問題解決に利用することができる。
二学期	一次関数	一次関数の意味を理解し身の回りの事象の中から一次関数を見だし、これを用いることができるようにする。 一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフの関係を明らかにし、連立方程式の解とグラフとの関係を理解する。
	図形の調べ方	対頂角の性質、平行線と角の関係について理解する。 三角形の内角の和について調べ、それをもとに多角形の角について調べる。 合同な図形の性質や三角形の合同条件を理解する。 証明の意味やしぐみについて理解する。 平行線と角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方や図形の性質の調べ方について理解する。
	図形と合同	三角形の合同条件を使って、二等辺三角形の性質を証明し、図形の性質の調べ方を理解する。 直角三角形の合同条件を導き、その使い方を理解する。 平行四辺形や、他の四角形の性質、平行線による等積変形などについて理解する。 図形の論証に対して興味・関心をもち、筋道を立てて考えようとする態度を身につける。
三学期	確率	具体的な事象についての観察や実験を通して、確率について理解する。 簡単な場合について確率を求めることができる。

教科の目標

- 数の平方根について理解し、数の概念についての理解をいっそう深める。また、目的に応じて計算したり式を変形する能力を一層伸ばすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。
- 具体的な事象を調べることを通して関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現する能力を伸ばす。
- 図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。

評価の観点・方法

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

定期試験、小テスト等による評価

ワーク、挙手、発表、レポート等による評価

教師の観察による評価

自己評価カード等による評価

特色ある学習方法

- ・生徒一人一人が積極的・意欲的に取り組むことができるよう、教材の工夫や教具の充実を図る。
- ・基礎基本の反復練習
- ・教科書にそった授業プリントの活用
- ・個々の学力にあった基礎問題発展問題を掲載する

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	多項式	文字を用いた簡単な多項式について、式の展開や因数分解ができるようにする。
	平方根	正の数の平方根の意味とその必要性を理解し、それを用いることができるようにする。
二 学 期	2次方程式	二次方程式とその解について理解し、二次方程式を用いることができるようにする。
	関数 $y = ax^2$	事象の中から関数関係にある2つの数量を取り出し変化の特徴を調べる能力を伸ばす。
	相似な図形	図形の相似の概念を明らかにするとともに、三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解をいっそう深める
三 学 期	円	円の性質を知り、円周角の定理、円周角の定理の逆を理解し、使えるようにする。
	三平方の定理	図形の計量に対する性質を理解し、それを用いることができるようにする。
	標本調査	標本調査の必要性とその意味を知り、標本調査の方法を理解し、簡単な場合行えるようにする。
	復習（入試問題等の演習）	

理科の目標

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけ、観察、実験から科学的に探求する力と態度を養う。

評価の観点

- 1 自然の事象に関心を持ち、授業に積極的に参加している。
- 2 課題にしっかり取り組み、科学的に考察を進めることができる。
- 3 観察や実験に意欲的に取り組み、方法を身に付け、結果を表現できる。
- 4 授業の内容を理解し、知識を身に付けている。
- 5 宿題やレポート等にしっかり取り組んでいる。

評価の方法

授業中の態度や参加のようす、発言・発表の様子や内容、観察・実験の技能、ノートやレポート・ワークなどの提出物、中間、期末テストや小テスト、授業道具の準備状況など総合的に評価する。

特色ある学習方法

- 実験・観察の重視
- 視聴覚教材の利用
- 実験プリントの活用
- 話し合い活動とグループ発表の充実
- 調べ学習（まとめや発表）

時間 1学期 週3時間
2学期 週3時間
3学期 週3時間

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	生物の観察と分類のしかた 植物の分類 動物の分類 身の回りの物質とその性質 気体の性質	観察を通して、どの特徴から分類するか考える。 いろいろな観点にもとづく植物の分類のしかたを学ぶ 特徴の違いによる動物の分類のしかたを学ぶ。 さまざまな金属や、見分けにくい白い粉末の物質や気体の性質を、実験を通して学ぶ。
2 学 期	水溶液の性質 物質の姿と状態変化 光の世界 音の世界 力の世界	水溶液に物質がとけている状態や取り出す方法を説明できる。 水溶液の性質の状態変化による変化、融点や沸点について学ぶ。粒子モデルを使った考え方を学ぶ。 光や音、力の実験を行い、そこから光や音、力の特徴や規則性を学ぶ。 物体に力がはたらくとどうなるか、力の表し方を学ぶ。
3 学 期	火をふく大地 動き続ける大地 地層から読み取る大地の変化	火山活動や火山噴出物観察の記録や資料を活用してマグマの性質や成因と関連づけて考察する。 大地は長い時間と広い空間の中で様々な要因が関連しながら変化してきたことを認識し、自然に対する畏敬の念を感じさせる。

理科の目標

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけ、観察、実験から科学的に探求する力と態度を養う。

評価の観点

- 1 自然の事象に関心を持ち、授業に積極的に参加している。
- 2 課題にしっかり取り組み、科学的に考察を進めることができる。
- 3 観察や実験に意欲的に取り組み、方法を身に付け、結果を表現できる。
- 4 授業の内容を理解し、知識を身に付けている。
- 5 宿題やレポート等にしっかり取り組んでいる。

評価の方法

授業中の態度や参加のようす、発言・発表の様子や内容、観察・実験の技能、ノートやレポート・ワークなどの提出物、中間、期末テストや小テスト、授業道具の準備状況など総合的に評価する。

特色ある学習方法

- 実験・観察の重視
- 映像、視聴覚教材の利用
- 実験プリントの活用
- 調べ学習を入れる（まとめや発表）
- ティームティーチング

時間 1学期 週4時間
2学期 週4時間
3学期 週4時間

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	物質のなりたち 物質どうしの化学変化 酸素がかかわる化学変化 化学変化と物質の質量 化学変化とその利用 生物と細胞	物質の変化やその量的な関係について理解し、原子・分子モデルと関連付ける見方を養う。 物質の成り立ちや化学変化の仕組みに対する興味関心を高める。 細胞の基本的なつくりやはたらきについて学ぶ。
2 学 期	植物のからだのつくりと はたらき 動物のからだのつくりと はたらき 刺激と反応 気象の観測 雲のでき方と前線 大気の動きと日本の天気	植物、動物の体のつくりと働きを実験・観察を通して理解し、動物が外界からの刺激に反応して行動するしくみを学ぶ。 身近な場所での気象観測をし、その結果をもとに気象要素と天気の変化の関係を見出す。 地球の水の循環が太陽のエネルギーにより起こる事を理解する。また、前線の構造や種類、天気の特徴について学ぶ。 日本付近の大気の動きや気団の性質、水蒸気の凝結現象について学ぶ。
3 学 期	静電気と電流 電流の性質 電流と磁界	静電気の基本的な性質を学ぶ。 電流の特徴から、電流と電圧の関係を見つけ説明する事ができる。 磁石や電流による磁界の実験を行いその特徴や規則性を学ぶ。

理科の目標

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけ、観察、実験から科学的に探求する力と態度を養う。

評価の観点

- 1 自然の事象に関心を持ち、授業に積極的に参加している。
- 2 課題にしっかり取り組み、科学的に考察を進めることができる。
- 3 観察や実験に意欲的に取り組み、方法を身に付け、結果を表現できる。
- 4 授業の内容を理解し、知識を身に付けている。
- 5 宿題やレポート等にしっかり取り組んでいる。

評価の方法

授業中の態度や参加のようす、発言・発表の様子や内容、観察・実験の技能、ノートやレポート・ワークなどの提出物、中間、期末テストや小テスト、授業道具の準備状況など総合的に評価する。

特色ある学習方法

- 実験・観察の重視
- 視聴覚教材の利用
- 実験プリントの活用
- 調べ学習を入れる（まとめや発表）

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	水溶液とイオン 酸、アルカリとイオン 化学変化と電池 生物の成長と生殖 遺伝の規則性と遺伝子	水溶液の電気伝導性や中和反応について理解すると共にイオンのモデルと関連づけてみる考え方を学ぶ。 生物の成長と増え方、遺伝の規則性について理解し、遺伝子の本体について学ぶ。
2 学 期	生物の多様性と進化 物体の運動 力のはたらき方 エネルギーと仕事 地球の運動と天体の動き 月と金星の見え方	生命の連続性と多様性について学ぶ。 力の基本的な性質を理解し運動の規則性や力学的エネルギーに関わる実験を行い仕事の概念を学ぶ。 運動とエネルギーの見方や考え方を学ぶ。 身近な天体の観測や地球の運動について考え、太陽や惑星の特徴及び月の運動について学ぶ。
3 学 期	宇宙の広がり 自然のなかの生物 自然環境の調査と保全 科学技術と人間 持続可能な社会のために	地球が、宇宙の中でどの位置にあるか考える。 自然界のつり合いについて理解し、自然と人間の関わり方について認識を深める。 エネルギー資源を有効利用し持続可能な循環型社会を構築するためにエネルギーの変換や保存について日常生活と関連付けて考える。

時間 1学期 週4時間
2学期 週4時間
3学期 週4時間



音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

1学年



- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。

2・3学

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。
- (3) 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

こんなことに取り組んでいます

特色ある取り組み

1. 歌唱では、独唱、斉唱、二重唱、各パート毎の練習を通してハーモニー創りをします。
2. リズムアンサンブルを取り入れ、そこからリズム創作活動を行っています。
3. 音楽の様々な要素や曲の構造と曲想の関わりなどを発見して様々な音楽を聴きます。
4. 和楽器(箏)やクラシックギターに触れることにより、日本や西洋の音楽に興味を持てるようにします。



音楽科シラバス

音楽は、世界中の国々でそれぞれ歴史をもって息づいています。そこには、得意、不得意ということではなく、心表現したり、人と人との心をつないだりして、人々が音楽を心の「よりどころ」として居る姿を見ることができます。

1週間に1～2時間の授業ですが、歌やリコーダーなどを中心とした楽器の演奏、音楽づくり、鑑賞を通して、様々な音楽にかかわり、いろいろな音楽のよさを、皆で味わうことを目指します。

また授業の中心となる合唱では、歌を通して表現することの楽しさと協力して生まれるハーモニーの美しさを感じ、合唱することの喜びを味わってほしいと願っています。

指導の重点

- 新学習指導要領の移行期に合わせて
- 教科の目標および内容をふまえ、地域や学校、生徒の実態に即して、三年間を見通した年間指導計画を作成し活用する。
 - 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を理解し、そこから生まれる音楽の特質や雰囲気を感じること、音楽の良さや美しさを感じて鑑賞し自らの表現活動に結びつけた活動ができるようにする。

評価の観

評価の方法

こんなことを評価します

- 1年間を通して、次の3つの観点から学習の様子を評価します。
- ▶ **知識・技能**
 - ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。
 - ・創意工夫を生かし、全体の響きを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、表現している。
 - ▶ **思考・判断・表現**
 - ・音色、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
 - ▶ **主体的に学習に取り組む態度**
 - ・旋律と言葉との関係に関心を持ち、音楽活動を楽

※各題材では、学習の途中や題材終了時等に、上の3つの観点から、「学習の実現状況」を表した「評価規準」を設定し、評価をしています。

音楽での評価は、授業の取り組みの様子や、歌唱・演奏活動の態度や技術、提出物の内容などが中心になってきます。音楽は実技教科ですので、一時間一時間が勝負です。よく意識して、学習活動に取り組むようにしましょう。

学習した内容がどのくらい定着しているか実技テストの他、授業の中で筆記テスト等も行います。

令和7年度
東松山市立松山中学校

こんな力を育てます

- 音楽の良さや美しさを感じ取り、音楽活動に意欲的に楽しく取り組める力
- 互いの思いや意図を認め合い取り入れ合いながら表現の工夫をしようとする力
- 表現に必要な諸要素の基本的な知識と技能の習得、演奏の向上力
- 様々な音楽の楽曲の持つ特徴や美しさを感じ、主体的に音楽性を高められる力



☆教科の目標

- 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する意欲と態度を育てる。
- 対象を深く観察する力、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身につける。
- 自然や美術作品などについて、基礎的な見方を知り、良さや美しさを感じ取る鑑賞の能力を育てる。

☆評価の観点・方法

- 美術への関心・意欲・態度
 - 材料、道具の準備
 - 制作に役立つ資料を自主的に準備しているか
 - 制作に集中しているか
 - 提出物の期限
 - 発表
- 発想や構想の能力
 - 様々なアイデアを出して作品を考えているか。
 - アイデアスケッチ
 - 構図・構成
- 創造的な技法
 - 材料や手段の工夫
 - 作品の完成度
- 鑑賞の能力
 - 鑑賞メモの内容
 - 発言内容
 - 校内作品展の見学 等

☆特色ある学習方法

- 各題材の中に、生徒が選択できる幅（テーマ・材料等）をもたせることで、「自分の作品」としてこだわりをもたせると共に、個性の伸長をはかる。
- 短時間題材（発想を大切にもの）と時間をかけてつくる題材（制作過程や完成度の高さを大切にもの）、鑑賞をバランス良く織り交ぜることで、美術の力を総合的に育成する。

1 年美術科

	題 材	題材のねらい・身につける力
一学期	◇美術との出会い（オリエンテーション） ◇色面構成の基本技法 ◇夢をレタリングする。	美術を学ぶ意義を理解する。グラデーションを通して課題制作の心構えと評価方法を確認する。 ポスターカラーの溶き方や筆の使い方、色の塗り方を覚える。 自分の夢や想いを9個の文字に託し、レタリング辞典から文字を写す。定規で線を引き色の三要素、配色の技法等を生かしながらか着彩していく。
二学期	◇友達の感動にふれよう（夏休みの課題の鑑賞） ◇世界にひとつのオリジナルパズル ◇構成美の要素	風景面の鑑賞のポイントを知り、互いの作品を評価し合う。 動植物などの自然物や身近な持ち物まで自分になじみのものをテーマにオリジナルパズルをデザインし制作する。カーボン紙、電動糸鋸、紙やすり、ニスの使い方も学習する。 美しいと感じるものには、形や色の組み立てに秩序がある。その秩序を組み合わせて構成することで変化や統一の画面が作れることを確認する。
三学期	◇エリックカールの絵本作り（ビデオ鑑賞） ◇のこされた造形	「はらぺこあおむし」の作者が子供たちに絵本作りの様子を紹介。絵本づくりの心構えを学びます。 人類が原始や古代の時代からつくり、残してきた様々な造形物について、その制作の様子や作られた目的を推し量る。

2年美術科

☆教科の目標

- 自ら美術の活動に取り組み、美術を愛好する意欲と態度を育てる。
- 対象を深く観察する力、豊かに発想し構想する能力を一層高める。
- 自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- 自然、美術作品や文化遺産について理解や見方を深め、心豊かに生きることとの関わりに関心をもつ。

☆評価の観点・方法

- 美術への関心・意欲・態度
 - 材料、道具の準備
 - 制作に役立つ資料を自主的に準備しているか
 - 制作に集中しているか
 - 提出物の期限
 - 発表
- 発想や構想の能力
 - 様々なアイデアを出して作品を考えているか。
 - アイデアスケッチ
 - 構図・構成
- 創造的な技法
 - 材料や手段の工夫
 - 作品の完成度
- 鑑賞の能力
 - 鑑賞メモの内容
 - 発言内容
 - 校内作品展の見学 等

☆特色ある学習方法

- 各題材の中に、生徒が選択できる幅（テーマ・材料等）をもたせることで、「自分の作品」としてこだわりをもたせると共に、個性の伸長をはかる。
- 短時間題材（発想を大切にするもの）と時間をかけてつくる題材（制作過程や完成度の高さを大切にするもの）、鑑賞をバランス良く織り交ぜることで、美術の力を総合的に育成する。

	題 材	題材のねらい・身につける力
一学期	◇多様な表現を求めて ◇植物スケッチから想像画へスクラッチボード ◇イメージを届けるデザイン	美術の表現の多様さや独特な表現形式・方法に関心を深め、材料の特性などを理解する。 スケッチした植物画や身近な文具などを使い想像力を生かし超現実的な世界を創造的に表す。 身の回りにある書籍、カードなど印刷物のデザインに関心を持ち、受け取る人のことを考えた内容や目的に合ったデザインの工夫を探り、グラフィックデザインの魅力や意義を考える。
二学期	◇友達の感動にふれよう（夏休みの課題の鑑賞） ◇リアルを追及しよう 和菓子 果物 文房具のどれかに エントリーして制作	風景画の鑑賞のポイントを知り、互いの作品を評価し合う。 本物そっくりに粘土を使って表現しよう。観察し研究しより良い形と色を見つけ出そう。材質の違いをだす工夫をしよう。
三学期	◇日本の美術と世界 ◇こころの想いを版に刻む。	日本の美術について、その時代や社会の変化、諸外国との交流に着目し興味や関心を持って鑑賞し、日本の美術の概括的変遷や固有の特色などへの興味や関心を高め、文化と伝統などについて理解し、その見方や感じ方を深める。 嬉しい自分や悲しい自分、強い自分や弱い自分、好きな自分や嫌いな自分などのこころの想いを、ニードルでアクリルの版に刻む。

*授業カット等により、一部実施できない場合もあります。

3年美術科

☆教科の目標

- 自ら美術の活動に取り組み、美術を愛好する意欲と態度を育てる。
- 対象を深く観察する力、豊かに発想し構想する能力を一層高める。
- 自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- 自然、美術作品や文化遺産について理解や見方を深め、心豊かに生きることとの関わりに関心をもつ。

☆評価の観点・方法

●美術への関心・意欲・態度

- 材料、道具の準備 ○制作に役立つ資料を自主的に準備しているか ○制作に集中しているか
- 提出物の期限 ○発表

●発想や構想の能力

- 様々なアイデアを出して作品を考えているか。
- アイデアスケッチ ○構図・構成

●創造的な技法

- 材料や手段の工夫 ○作品の完成度

●鑑賞の能力

- 鑑賞メモの内容 ○発言内容
- 校内作品展の見学 等

☆特色ある学習方法

- 各題材の中に、生徒が選択できる幅（テーマ・材料等）をもたせることで、「自分の作品」としてこだわりをもたせると共に、個性の伸長をはかる。
- 短時間題材（発想を大切にするもの）と時間をかけてつくる題材（制作過程や完成度の高さを大切にするもの）、鑑賞をバランス良く織り交ぜることで、美術の力を総合的に育成する。

	題 材	題材のねらい・身につける力
一学期	◇色彩の輝き ◇自分らしさ見つけて自画像を描く	印象派が生まれた時代背景や日本美との関連にも興味を持ち、社会的な視野でモネやルノワールの作品をとらえる。 「悲しいときの自分」と「嬉しいときの自分」や好きな物に囲まれてる自分などをコラージュなどのいろいろな表現技法を駆使し、自由な色彩表現を楽しみながら、自分自身の内面と向き合って表現する。
二学期	◇友達の感動にふれよう（夏休みの課題の鑑賞） ◇時代を映す美術（ピカソ「ゲルニカ」の鑑賞）	風景画の鑑賞のポイントを知り、互いの作品を評価し合う。 「ゲルニカ」の描かれた時代背景や社会の状況に関心を持ち、ピカソの生き方を通して、時代や社会と美術の関わりについて理解を深める。
三学期	◇アジアの多様な美術 ◇アートボックスの中に自分の世界をつくりだそう	アジア諸国の美術を鑑賞しそれぞれの文化や伝統に根ざした多様なよさや美しさを味わう。 卒業制作として今まで学んだことを全部活用して制作を進める、自分にしか出来ない世界をボックスの中に表現する。 素材を見つけるところからスタートする。

*授業カット等により、一部実施できない場合もあります。

■ 教科の目標

- 1 運動に親しみ、自らの運動課題を自ら意欲的に解決しようとする資質や能力を育てる。
- 2 健康の保持増進に関する知識を身につけ、自らの生活において適切に実践するための基礎を育成する。
- 3 競争や共同の経験を通して、互いに協力し、健康で安全な生活を営む実践力およびたくましい心身を育てる。

■ 評価の観点

- 1 欠席や見学がなく、服装を整え、進んで運動しようとする。
- 2 運動の課題の解決を目指して考え工夫している。
- 3 運動に必要な技能や体力を身につけている。
- 4 運動や健康・安全についての知識を身につけている。

■ 評価の方法

- 知識 技能
 - ・期末テスト
 - ・ルールや運動の技能構造説明、審判などを中心に、総合的に評価
 - ・基礎、基本的なスキルテスト、観察
 - ・高度な技や技能の実技テスト
- 思考・判断・表現
 - ・学習資料の活用と学習カードの記入
 - ・ペア、グループ等の活動の様子
- 主体的に学習に取り組む態度
 - ・見学や欠席の状況(服装、忘れ物、準備や片づけ)
 - ・授業へ取り組む意欲(かけ声、運動量、学習カードの活用)

■ 特色のある学習方法

- 学習領域や学習種目の選択
- 課題解決学習の導入
- ペア、グループ学習の活用
- 学校行事の位置づけ

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	○体育理論 ○体づくり運動(体力テスト) ○球技Ⅰ ・バレーボール ○ダンス ○保健	・運動と体や心の動きの関わりを理解する。 ・人数や活動場所に合った体ほぐしの運動を工夫し、仲間と協力し楽しみながら運動の重要性を理解する。 ・基本的技能を身につけ簡単なルールでゲームができる。 ・身体を動かして表現運動の楽しさを味わい、テーマからイメージした表したい感じを、身体全体を使って表現できる。 ・心身の発達についての知識を、今後の生活にいかすことができる。
2 学 期	○陸上競技Ⅰ ・短距離走 ・リレー ○水泳 ・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ ○球技Ⅰ ・ソフトボール ○武道 ○体づくり運動 ○保健	- 短距離走やリレーの技能構造を理解し、自己の目標を設定して、目当てを持って自主的な学習を行い、効率のよい運動実践で記録の更新を目指す。 ・自己の能力に適した課題を持って多くの種目で100m以上泳げる。 ・できる技をよりよくできるようにするとともに、自分ができそうな技を選んで練習できる。 ・技を組み合わせ連続して行い、できばえをお互いに評価し合える。 ・柔道の特性を十分に理解し、礼法および基本動作を身につける。 ・自己の体力(持久力)を高めるための運動課題を考え実践し、今後の生活に生かすことができる。 ・心の健康についての知識を、今後の生活に生かすことができる。
3 学 期	○球技Ⅱ ・ハンドボール ○球技Ⅲ ・卓球 ○保健 ○体づくり運動	・基本的技能を身につけ簡単なルールでゲームができる。 ・健康な生活と病気の予防 ・人数や活動場所に合った体ほぐしの運動を工夫し、仲間と協力し楽しみながら運動の重要性を理解する。

■ 教科の目標

- 1 運動に親しみ、自らの運動課題を自ら意欲的に解決しようとする資質や能力を育てる。
- 2 健康の保持増進に関する知識を身につけ、自らの生活において適切に実践するための基礎を育成する。
- 3 競争や共同の経験を通して、互いに協力し、健康で安全な生活を営む実践力およびたくましい心身を育てる。

■ 評価の観点

- 1 欠席や見学がなく、服装を整え、進んで運動しようとする。
- 2 運動の課題の解決を目指して考え工夫している。
- 3 運動に必要な技能や体力を身につけている。
- 4 運動や健康・安全についての知識を身につけている。

■ 評価の方法

- 知識 技能
 - ・期末テスト
 - ・ルールや運動の技能構造説明、審判などを中心に、総合的に評価
 - ・基礎、基本的なスキルテスト、観察
 - ・高度な技や技能の実技テスト
- 思考・判断・表現
 - ・学習資料の活用と学習カードの記入
 - ・ペア、グループ等の活動の様子
- 主体的に学習に取り組む態度
 - ・見学や欠席の状況(服装、忘れ物、準備や片づけ)
 - ・授業へ取り組む意欲(かけ声、運動量、学習カードの活用)

■ 特色のある学習方法

- 学習領域や学習種目の選択
- 課題解決学習の導入
- ペア、グループ学習の活用
- 学校行事の位置づけ

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	○体育理論 ○体づくり運動(体力テスト) ○球技Ⅰ ・バレーボール ○ダンス ○保健	・運動と体や心の動きの関わりを理解する。 ・人数や活動場所に合った体ほぐしの運動を工夫し、仲間と協力し楽しみながら運動の重要性を理解する。 ・技能構造を理解し、自己の課題やチームの課題をもって運動を行い、個人的技能や集団の技能を身につけ、ゲームに生かすことができる。 ・身体を動かして表現運動の楽しさを味わい、リズムの特徴をつかんで身体全体を大きく使って表現できる。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為が健康を損なう原因となることを理解し、今後の生活に生かすことができる。
2 学 期	○陸上競技Ⅰ ・短距離走 ・リレー ○水泳 ・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ ○器械運動 ※1種目選択 ・マット・跳び箱 ○武道 ○体づくり運動 ○保健	・短距離走やリレーの技能構造を理解し、自己の目標を設定して、目標を持って自主的な学習を行い、効率のよい運動実践で記録の更新を目指す。 ・自己の能力に適した課題を持って多くの種目で100m以上泳げる。 ・できる技をよりよくできるようにするとともに、自分ができそうな技を選んで練習できる。 ・技を組み合わせ連続して行い、できばえを互いに評価し合える。 ・自己の能力に適した課題を持って運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。 ・自己の体力(持久力)を高めるための運動課題を考え実践し、今後の生活に生かすことができる。 ・傷害の防止についての知識を身につけ、今後の生活に生かすことができる。
3 学 期	○球技Ⅱ ※1種目選択 ・サッカー ・バドミントン ○保健 ○体づくり	・技能構造を理解し、自己の課題やチームの課題をもって運動を行い、個人的技能や集団の技能を身につけ、ゲームに生かすことができる。 ・健康な生活と病気の予防についての知識を身につけ、今後の生活に生かすことができる。 ・人数や活動場所に合った体ほぐしの運動を工夫し、仲間と協力し楽しみながら運動の重要性を理解する。

■ 教科の目標

- 1 運動に親しみ、自らの運動課題を自ら意欲的に解決しようとする資質や能力を育てる。
- 2 健康の保持増進に関する知識を身につけ、自らの生活において適切に実践するための基礎を育成する。
- 3 競争や共同の経験を通して、互いに協力し、健康で安全な生活を営む実践力およびたくましい心身を育てる。

■ 評価の観点

- 1 欠席や見学がなく、服装を整え、進んで運動しようとする。
- 2 運動の課題の解決を目指して考え工夫している。
- 3 運動に必要な技能や体力を身につけている。
- 4 運動や健康・安全についての知識を身につけている。

■ 評価の方法

- 知識 技能
 - ・期末テスト
 - ・ルールや運動の技能構造説明、審判などを中心に、総合的に評価
 - ・基礎、基本的なスキルテスト、観察
 - ・高度な技や技能の実技テスト
- 思考・判断・表現
 - ・学習資料の活用と学習カードの記入
 - ・ペア、グループ等の活動の様子
- 主体的に学習に取り組む態度
 - ・見学や欠席の状況(服装、忘れ物、準備や片づけ)
 - ・授業へ取り組む意欲(かけ声、運動量、学習カードの活用)
 - ・高度な技や技能の実技テスト

■ 特色のある学習方法

- 学習領域や学習種目の選択
- 課題解決学習の導入
- ペア、グループ学習の活用
- 学校行事の位置づけ

	学習すること	学習のねらい
1学期	○体育理論 ○体づくり運動(体力テスト) ○球技Ⅰ ※1種目選択 ・バスケットボール ・サッカー ○ダンス ○器械運動 ※1種目選択 ○保健	・運動と体や心の動きの関わりを理解する。 ・1年から2年への体力の伸びを分析し、体力テストへの具体的な目標を持つ。 ・自分や仲間の体の状態に気づき、楽しく体ほぐしの運動ができる。 ・チームの課題や自己の能力に適した課題をもって運動を行い、個人的技能や集団の技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 身体を動かして表現運動の楽しさを味わい、リズムの特徴をつかんで身体全体を大きく使って表現できる。 ・技能構造を理解し、自己の課題をもって運動を行い、個人的技能を身につけることができる。 ・健康な生活と病気の予防についての知識を身につけ、今後の生活に生かすことができる。
2学期	○陸上競技Ⅰ ・短距離走 ・リレー ○水泳 ※3泳法必修 ・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ ○武道 ○体づくり運動 ○保健	・短距離走やリレーの技能構造を理解し、自己の目標を設定して、目当てを持って自主的な学習を行い、効率のよい運動実践で記録の更新を目指す ・自己の能力に適した課題を持って続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。 ・自己の能力に適した課題を持って運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して競技を行うことができる。 ・自己の体力(持久力)を高めるための運動課題を考え実践し、今後の生活に生かすことができる。 ・健康と環境についての知識を身につけ、今後の生活に生かすことができる。
3学期	○球技Ⅱ ※1種目選択 ・バドミントン ・卓球 ○保健 ○体づくり	・チームの課題や自己の能力に適した課題をもって運動を行い、個人的技能や集団の技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 ・健康と環境について理解し、今後の生活に生かすことができる。 ・自分や仲間の体の状態に気づき、楽しく体ほぐしの運動ができる。

教科の目標

◆実践的・体験的な学習活動を通して生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識及び技能を習得する。
また、家族・家庭の機能についても理解を深める。

◆実践的・体験的な学習を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

評価の観点・方法

【評価の観点】

- 生活や技術についての知識及び技能
- 生活や技術についての思考・判断・表現
- 生活や技術についての主体的に学習に取り組む態度

【評価の方法】

- ・製作物による評価
- ・レポートに記載されている内容
- ・実技テストによる評価
- ・ポートフォリオを活用した評価
- ・ペーパーテスト・質問紙を利用した評価

特色ある学習方法

・衣食住やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を行う。

・自ら課題を見だし、解決を図る問題解決学習の充実を図る。

・家庭、地域社会との連携や生涯学習の視点を踏まえつつ、学習内容を考える。

・学んだことを生活や社会の中で生かすことができるよう題材を設定する。

	学習すること	学習のねらい
技術	○技術分野のガイダンス ○材料と加工の技術の原理・法則としくみ ○材料と加工の技術による問題解決 ○社会の発達と材料と加工の技術 ○情報の技術の原理・法則としくみ ○双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	○技術の役割を考える。 ○組織、加工法、利用法構想の表示方法を知る。 ○等角図で製作図をかくことができる。 ○製作の手順・方法を理解し、設計に基づいて、製作品をねばり強く仕上げるができる。 ○コンピュータの基本操作と機能がわかる。 ○プログラムの製作ができる。
家庭科	○食生活を見つめよう ・食事の役割 ・栄養素の働き ・中学生の時期の栄養素の特徴 ・食品の栄養的特質 ・簡単な日常食の調理 ○郷土料理の味と食文化を守ろう ・地域の伝統的な行事食 ○住まいを見つめよう ・自分と住まいとの関わりを考えよう ・幼児や高齢者に優しい住まい	○日常の食生活と関連づけて中学生の時期の栄養に関する知識を理解する。 ○食生活を点検し課題を見付け、一日分の献立が立てられるようにする。 ○調理実習は、基礎的な調理操作を学習し、身につける。 ○地域の伝統的な行事食や郷土料理を調べ、自分の食生活を振り返る。 ○住まいの役割と基本的な機能について理解する。 ○健康で快適な室内環境の条件を知り、改善方法を考える。 ○家庭内事故や災害への備えについて知り、安全に住むための方法を考える。

教科の目標

◆実践的・体験的な学習活動を通して生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識及び技能を習得する。
また、家族・家庭の機能についても理解を深める。

◆実践的・体験的な学習を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

評価の観点・方法

【評価の観点】

- 生活や技術についての知識及び技能
- 生活や技術についての思考・判断・表現
- 生活や技術についての主体的に学習に取り組む態度

【評価の方法】

- ・製作物による評価
- ・レポートに記載されている内容
- ・実技テストによる評価
- ・ポートフォリオを活用した評価
- ・ペーパーテスト・質問紙を利用した評価

特色ある学習方法

・衣食住やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を行う。

・自ら課題を見だし、解決を図る問題解決学習の充実を図る。

・家庭、地域社会との連携や生涯学習の視点を踏まえつつ、学習内容を考える。

・学んだことを生活や社会の中で生かすことができるよう題材を設定する。

	学習すること	学習のねらい
技術	○エネルギー変換の技術の原理・法則としくみ ○エネルギー変換の技術による問題解決 ○社会の発展とエネルギー変換の技術 ○生物育成の技術の原理・法則としくみ ○生物育成の技術による問題解決 ○社会の発展と生物育成の技術	○生活の中での電気の利用形態、発電の仕組みとその特徴、及び社会への影響を理解する。 ○かんたんな電気回路を製作し、その方法や工具への認識を深め、電気エネルギーの利用についての理解を深める。 ○生物育成に適する条件と管理する方法を知る。 ○問題の発見・課題の設定を行う。 ○生物育成に関する技術の適切な評価・改善・修正について考える。
家庭科	○衣食住の学びに関するガイダンス ○目的にあった服を選ぶ ○手入れ名人になろう ○賢い消費者になろう	○生活と家庭のはたらきについてつながりを考える。 ○衣食と社会生活の関わりを知り、日常着の計画的な活用と選択、手入れと補修のしかたを理解する。 ○布を使った製作の計画を立て製作が出来るようにする。 ○商品を適切に選択、購入する方法について考える。

教科の目標

◆実践的・体験的な学習活動を通して生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識及び技能を習得する。
また、家族・家庭の機能についても理解を深める。

◆実践的・体験的な学習を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

評価の観点・方法

【評価の観点】

- 生活や技術についての知識及び技能
- 生活や技術についての思考・判断・表現
- 生活や技術についての主体的に学習に取り組む態度

【評価の方法】

- ・製作物による評価
- ・レポートに記載されている内容
- ・実技テストによる評価
- ・ポートフォリオを活用した評価
- ・ペーパーテスト・質問紙を利用した評価

特色ある学習方法

・衣食住やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を行う。

・自ら課題を見いだし、解決を図る問題解決学習の充実を図る。

・家庭、地域社会との連携や生涯学習の視点を踏まえつつ、学習内容を考える。

・学んだことを生活や社会の中で生かすことができるよう題材を設定する。

	学習すること	学習のねらい
技術	○プログラミングによる問題解決 ・計測・制御とは ・問題の発見 ・課題の設定 ・システムの構想 ・プログラムの制作 ○統合的な問題解決 ・問題解決の評価・改善・修正	○身の回りにある計測・制御システムについて、調べる。 ○発見した問題を解決するための課題を設定する。 ○安全で適切なプログラムの制作と動作の確認を行う。 ○プログラミングによる問題解決を振り返り評価し改善・修正する方法について考える。
家庭科	○家庭と家族の役割について知ろう。 ・自分の成長と家族家庭の関わり ○幼児と遊ぼう ・遊びの観察 ・遊び道具と環境 ・遊び道具の製作 ○周囲の人々との関わりを知ろう ・幼児の心身の発達 ・社会性の発達 ・基本的な生活習慣の形成と家族の役割 ○幼児と過ごそう ・幼児の生活に役立つ物の製作	○自分の成長と家族や家庭生活との関わりを考える。 ○幼児の遊びを観察したり、遊び道具を製作したり、幼児にとっての遊びの役割について考える。 ○幼児の心身の発達の特徴や基本的な生活習慣の重要性を知り、幼児に関わる家族の役割について理解する。 ○遊びや生活への関心を高め課題を設定し、幼児の生活に役立つ物を工夫し製作する。

教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点**【評価の観点】**

- 実際のコミュニケーションにおいて、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用できる技能を身につけている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で簡単な情報や考えなどを理解し、活用して表現したり伝え合ったりすることができる。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを粘り強く行おうとしている。

【評価の方法】

- 定期試験、小テストによる評価
- ノートやワーク、課題プリントによる評価
- パフォーマンステスト(英会話)による評価
- 授業中の観察による評価
- 生徒自身による自己評価

特色ある学習方法

- 授業形態に変化をつけ、生徒一人一人の学習意欲を高めるとともに、学習内容の確実な定着を図る。
- ALTの生きた英語に触れる機会を多くし、常に実践的な言語の使用場面を想定して指導することで、実践的コミュニケーション能力の育成につなげる。
- 視覚的教材を利用し、理解を深めさせる。

	学習内容	学習のねらい
1 学期	・初対面の相手との会話 ・アルファベットの読み書き ・自己紹介 (be 動詞 am, are, 一般動詞) ・身近な人の紹介 (be 動詞 is, can) ・学校生活(疑問詞) ・海外の人との交流 (How many, What+名詞, 命令文) ・自分の好きなこと	・初対面の相手と知り合うために、好きなもの、入りたい部活動などについて、お互いの考えや気持ちを伝え合える。 ・アルファベットの音を聞いて文字が分かり、声に出して読んだり書いたりできる。 ・お互いのことをよりよく知るために、名前や出身地、得意なこと、希望や夢等について即興でやりとりできる。 ・海外の人の生活を知るために相手の情報を聞くやりとりができる。 ・好きなこと、体験したこと等について即興でやりとりできる。また、情報を整理してつながりのある文章でポスター等を書ける。
2 学期	・夏の思い出(過去形) ・他己紹介 (三人称単数現在形) ・落語等の文化理解 (代名詞, 疑問詞) ・オンラインツアー (現在進行形, 感嘆文) ・世界や地域の問題 (不定詞, look+形容詞) ・好きな有名人や憧れの人	・夏休みの間にしたことについて、やりとりし、その内容を書ける。 ・友達等を他者に知ってもらうために、趣味などについて情報を整理し、紹介文を書き、スピーチができる。 ・身近な人や文化、言葉や食べ物等について詳しく知るために、やりとりできる。 ・今していることや、感動や驚きの気持ちを伝え合える。 ・世界や地域の問題について概要を捉え、解決策に向けた思いを伝え合い、まとまった文で書ける。 ・好きな有名人を紹介する文章を書ける。
3 学期	・冬の思い出 (一般動詞の過去形) ・1年間の思い出, 町紹介 (be 動詞の過去形, There is / are ..., 過去進行形) ・思い出に残った行事 ・物語の読解	・冬休みの間にしたことについて、やりとりし、その内容を書ける。 ・一年の思い出や町の施設について、伝え合い、その内容を書ける。 ・思い出に残った学校行事について発表できる。 ・時間の経過や場面の変化を捉え、登場人物の心情の変化などを読み取ることができる。

教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点**【評価の観点】**

- 実際のコミュニケーションにおいて、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用できる技能を身につけている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で簡単な情報や考えなどを理解し、活用して表現したり伝え合ったりすることができる。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを粘り強く行おうとしている。

【評価の方法】

- 定期試験、小テストによる評価
- ノートやワーク、課題プリントによる評価
- パフォーマンステスト(英会話、スピーチ)による評価
- 授業中の観察による評価
- 生徒自身による自己評価

特色ある学習方法

- 授業形態に変化をつけ、生徒一人一人の学習意欲を高めるとともに、学習内容の確実な定着を図る。
- ALTの生きた英語に触れる機会を多くし、常に実践的な言語の使用場面を想定して指導することで、実践的コミュニケーション能力の育成につなげる。

	学習内容	学習のねらい
1 学期	・春休みの思い出（過去形） ・理想の海外旅行 (be going to、助動詞 will、 文構造：SV00, SV0C) ・食文化の歴史と変化 (接続詞 when, if, that, because) ・将来の夢 (不定詞)	・春休みの間にしたことについて、1年生の既習内容等を使ってやりとりできる。 ・理想の海外旅行を計画し、プレゼンできる。 ・食文化の歴史と変化を理解し、自分の調べた地域の食文化を紹介できる。
2 学期	・ホームステイ (have to、助動詞 must、 動名詞) ・ユニバーサルデザイン (疑問詞+to、主語+be 動詞 +形容詞+that) ・プレゼンテーション (比較表現)	・将来像や夢について考え、これから取り組みたいことなど、10年後の自分へのメッセージを書ける。 ・海外の人に、日本の生活習慣やマナーについて紹介できる。 ・だれもが暮らしやすい社会について考え、ユニバーサルデザインを各自調べて、プレゼンできる。
3 学期	・世界遺産 (受け身) ・説明文の読解	・自分の調べた世界遺産の特徴や自分の経験してみたいことについて紹介文を書ける。 ・説明文を時系列に沿って読みとり、環境問題について考えを深める。

教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点**【評価の観点】**

- 実際のコミュニケーションにおいて、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用できる技能を身につけている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で簡単な情報や考えなどを理解し、活用して表現したり伝え合ったりすることができる。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを粘り強く行おうとしている。

【評価の方法】

- 定期試験、小テストによる評価
- ノートやワーク、課題プリントによる評価
- パフォーマンステスト(英会話、スピーチ)による評価
- 授業中の観察による評価
- 生徒自身による自己評価

特色ある学習方法

- 授業形態に変化をつけ、生徒一人一人の学習意欲を高めるとともに、学習内容の確実な定着を図る。
- ALTの生きた英語に触れる機会を多くし、常に実践的な言語の使用場面を想定して指導することで、実践的コミュニケーション能力の育成につなげる。

	学習内容	学習のねらい
1 学期	・日本のポップカルチャー (現在完了形) ・環境にやさしい商品 (現在完了進行形) ・絶滅危惧の動物 (不定詞)	・海外の人に日本に興味を持ってもらうために、日本のポップカルチャーの魅力をプレゼンできる。 ・環境にやさしい商品の特徴や長所を伝えるために、エシカル商品PRのポスター等を書ける。 ・絶滅のおそれのある動物の現状を知り、減少の原因を調べ、その動物を守るために必要なことについて記事等を書ける。
2 学期	・防災 (間接疑問文) ・平和と人権～ガンディ～ (現在分詞、過去分詞による後置修飾) ・地球市民 (関係代名詞による後置修飾)	・防災・安全への意識を高めるために、地域の一員としての防災への取り組みについて話せる。 ・理想のリーダーとはどんな人かを伝えるため、理想のリーダーであるための情報について話せる。 ・国を超えて助け合うことの大切さについて考え、地球市民としての抱負を自分の願いを伝え合える。
3 学期	・3年間の英語学習のまとめを行う。 ・既習表現を用いて自己表現をする。 ・長文読解練習等、様々な英文を理解する活動を行う。	・入学試験も見据え、様々な問題練習を行いながら、3年間で学んだ表現を適切に使って、自分の伝えたいことを英語で表現できる。